



第23回 The 23rd Annual Meeting of the Japanese Society for Vaccinology 日本ワクチン学会学術集会

プログラム・抄録集

サーベイランスから対策へ
有効性と安全性の両輪で考える
ワクチン元年

会長 ▶ **多屋 馨子**

国立感染症研究所
感染症疫学センター

会期 ▶ 令和元年(2019年)

11月30日(土)・12月1日(日)

会場 ▶ **都市センターホテル**

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1



The 23rd Annual Meeting of
the Japanese Society for Vaccinology

第23回 日本ワクチン学会学術集会

プログラム・抄録集

サーベイランスから対策へ
有効性と安全性の両輪で考える
ワクチン元年

会長 ▶ **多屋 馨子**

国立感染症研究所 感染症疫学センター

会期 ▶ **令和元年(2019年)**

11月30日(土)・12月1日(日)

会場 ▶ **都市センターホテル**

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1

INDEX

会長挨拶	1
プログラム委員会・歴代会長	2
交通のご案内	3
会場のご案内	4
参加者へのご案内とお願い	5
学会行事	7
発表についてのご案内	8
高橋賞受賞者および受賞研究題名一覧	10
高橋奨励賞受賞者および受賞研究題名一覧	12
日 程 表	13
プログラム	15
抄 録	
会長講演	36
特別講演	38
韓国ワクチン学会招聘講演	40
高橋賞受賞記念講演	42
高橋奨励賞受賞記念講演	43
特別シンポジウム	46
シンポジウム	50
予防接種推進専門協議会共催シンポジウム	70
モーニングセミナー	74
教育セミナー	78
イブニング教育セミナー	90
学術集会若手奨励賞受賞演題	94
一般演題抄録	98
日本ワクチン学会 賛助会員	146
協賛企業・団体一覧	147

会 長 挨拶

この度、第23回日本ワクチン学会学術集会を2019年11月30日(土)、12月1日(日)の2日間、都市センターホテル(東京都千代田区)で開催させて頂くことになりました。

今回は、学会メインテーマを「サーベイランスから対策へ ―有効性と安全性の両輪で考える、ワクチン元年―」とさせて頂きました。平成から新たな元号となつてすぐの学術集会開催となります。新たな元号で迎える元年を「ワクチン元年」と題しました。

学術集会のテーマにした「サーベイランス」とは、発生動向を監視するだけではなく、結果を評価し、そこから対策を考え、実践した対策に対してさらなる評価・対策に繋げていくものであり、ワクチンに関連したサーベイランスは、常に「有効性と安全性の両輪」で考える必要があると考えています。

基礎研究、製造・開発、臨床研究、サーベイランス、疫学研究、行政施策の観点から、この両輪が連動するように研究・検討を進めていくことで、更なる発展があると期待しています。

学術集会では一般演題発表のほかに、特別講演、韓国ワクチン学会招聘講演、高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演、学術集会若手奨励賞受賞講演、シンポジウム、モーニングセミナー、教育セミナー、企業等展示、情報交換会を予定しております。

「ワクチン」というキーワードの元に、基礎、臨床、疫学、製造開発、行政の関係者が一堂に集まり、ワクチン・予防接種の明るい未来が感じられるような学術集会にしたいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

第23回日本ワクチン学会学術集会

会 長 多屋 馨子 国立感染症研究所
感染症疫学センター

第23回日本ワクチン学会学術集会 プログラム委員会

委 員	石 井 健	東京大学医科学研究所ワクチン科学分野
	石和田稔彦	千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野
	大石 和徳	富山県衛生研究所
	勝田 友博	聖マリアンナ医科大学医学部医学科小児科
○	神谷 元	国立感染症研究所感染症疫学センター
	崎山 弘	崎山小児科
	杉下 由行	東京都福祉健康局医療政策部医療安全課
	鈴木 忠樹	国立感染症研究所感染病理部
	砂川 富正	国立感染症研究所感染症疫学センター
	田中 孝明	川崎医科大学小児科学教室
	多屋 馨子	国立感染症研究所感染症疫学センター
	中山 哲夫	北里生命科学研究所
	福島 若葉	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学
	森 嘉生	国立感染症研究所ウイルス第三部第二室

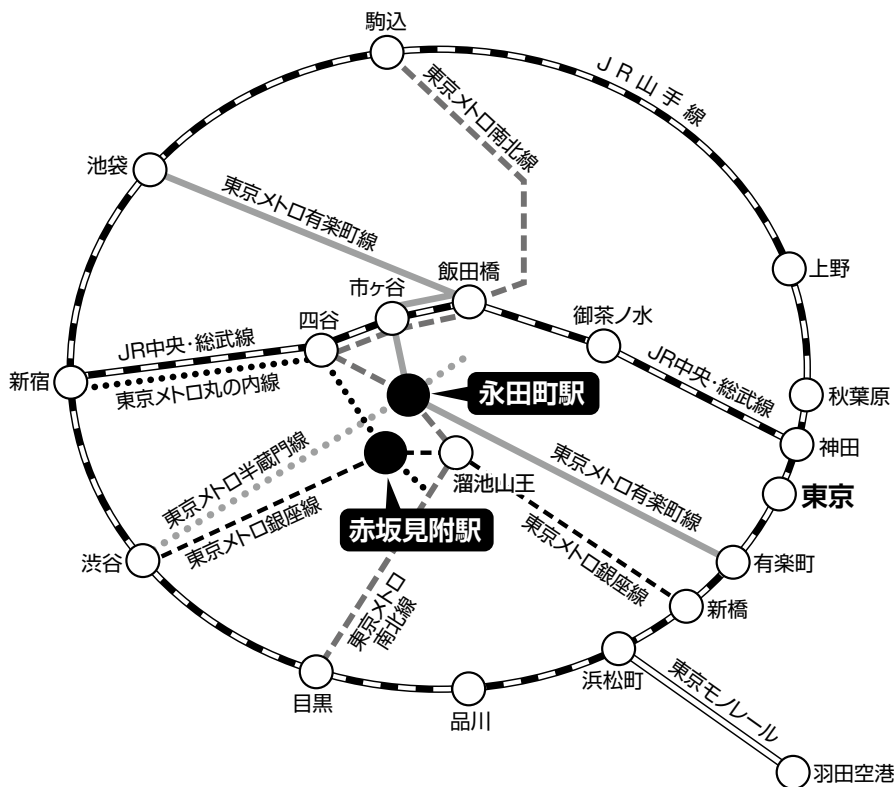
(○：委員長、敬称略・五十音順)

日本ワクチン学会学術集会 歴代会長

第 1 回	(1997.12)	大谷 明	(東 京：ヤクルトホール)
第 2 回	(1998.11)	高橋 理明	(大 阪：千里ライフサイエンスセンター)
第 3 回	(1999.11)	神谷 齊	(愛 知：名古屋国際会議場)
第 4 回	(2000.11)	加藤 達夫	(神奈川：横浜銀行ホール「ヴィアマーレ」)
第 5 回	(2001.10)	蟻田 功	(熊 本：熊本市産業文化会館)
第 6 回	(2002.11)	堀内 清	(千 葉：千葉市文化センター)
第 7 回	(2003.10)	浅野 喜造	(愛 知：名古屋国際会議場)
第 8 回	(2004.10)	富樫 武弘	(北海道：札幌コンベンションセンター)
第 9 回	(2005.10)	奥野 良信	(大 阪：大阪国際交流センター)
第10回	(2006.10)	山西 弘一	(大 阪：全日空ゲートタワーホテル大阪)
第11回	(2007.12)	倉田 毅	(神奈川：パシフィコ横浜)
第12回	(2008.11)	岡 徹也	(熊 本：熊本市民会館)
第13回	(2009. 9)	喜田 宏	(北海道：ロイトン札幌)
第14回	(2010.12)	岡部 信彦	(東 京：九段会館)
第15回	(2011.12)	中山 哲夫	(東 京：日本教育会館)
第16回	(2012.11)	清野 宏	(神奈川：パシフィコ横浜)
第17回	(2013.11)	庵原 俊昭	(三 重：三重県総合文化センター)
第18回	(2014.12)	廣田 良夫	(福 岡：福岡国際会議場)
第19回	(2015.11)	尾崎 隆男	(愛 知：名鉄犬山ホテル)
第20回	(2016.10)	武下 文彦	(東 京：京王プラザホテル)
第21回	(2017.12)	岡田 賢司	(福 岡：福岡国際会議場)
第22回	(2018.12)	森 康子	(神 戸：神戸国際会議場)
第23回	(2019.11)	多屋 馨子	(東 京：都市センターホテル)

(敬称略)

交通のご案内



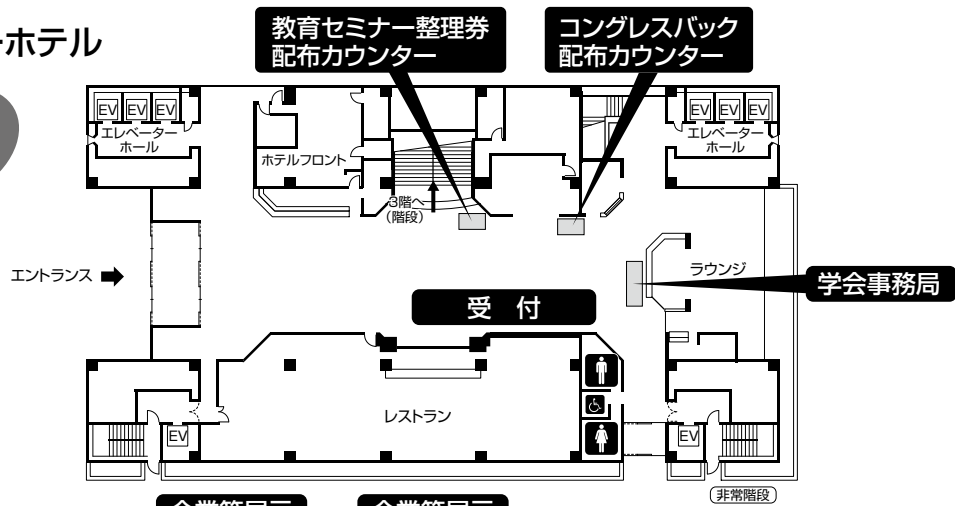
- **東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」**
9b番・9a番出口より徒歩3分、
4番・5番出口より徒歩4分
※「永田町駅」からのアクセスは、
5番出口方面の先にある9b出口が
便利です。ホテル前のプリンス通り
に出られます。
- **東京メトロ 有楽町線「麹町駅」**
半蔵門方面1番出口より徒歩4分
- **東京メトロ 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」**
D出口より徒歩8分



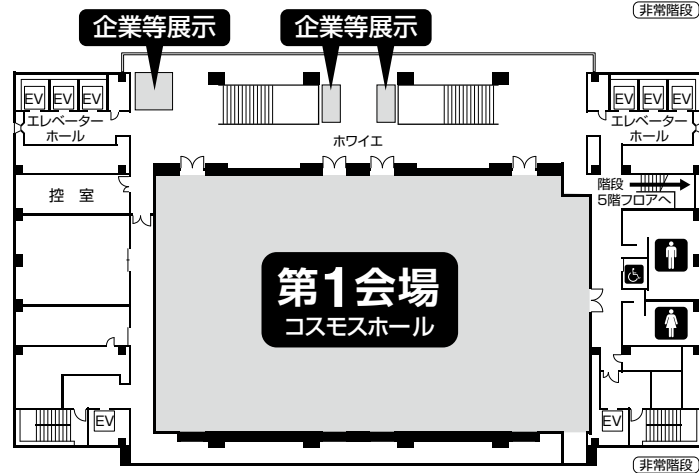
会場のご案内

都市センターホテル

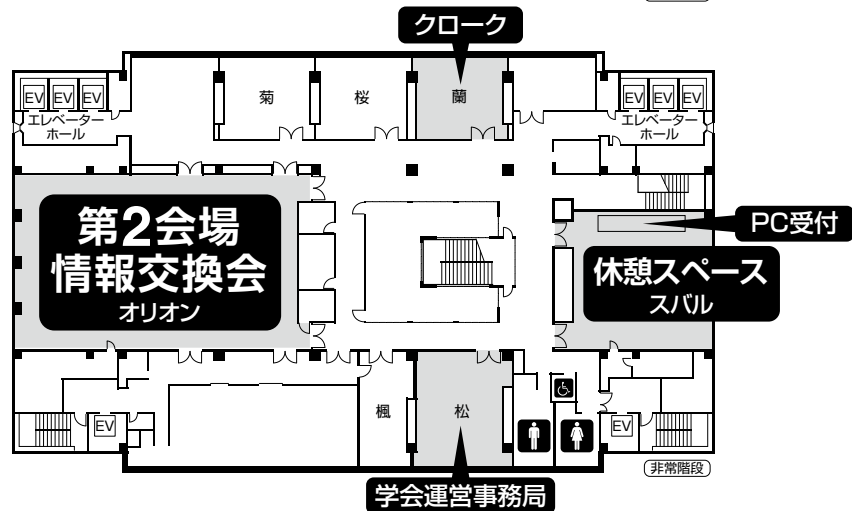
Lf



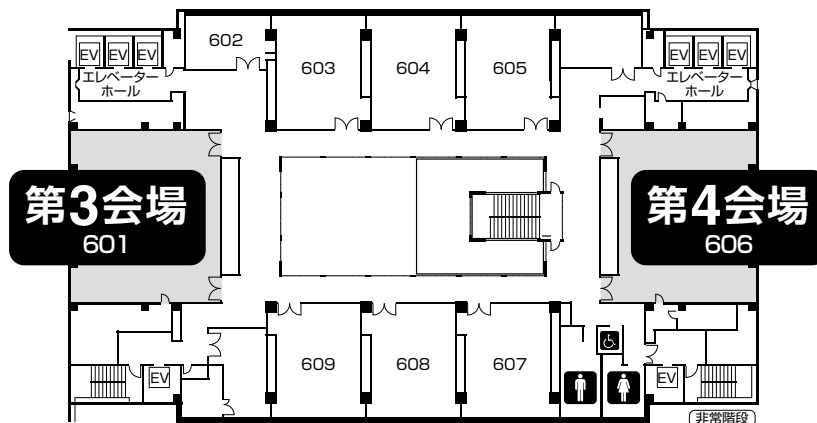
3F



5F



6F



参加者へのご案内とお願い

■参加受付

日 時：11月30日(土) 7:30～18:00
12月1日(日) 7:30～15:30
場 所：都市センターホテル LF ロビー

■参加登録料

	事前登録	当日登録
学 会 員	13,000 円	15,000 円
非学会員	16,000 円	18,000 円
学部学生	2,000 円	3,000 円

※学部学生の方は、受付にて身分証明書をご提示ください。

■当日参加受付をされる方へ

当日、記名台にて参加登録票をご記入いただき、受付にて参加費をお支払いの上、ネームカードをお受け取りください。
混雑を避けるためネームカードへの所属・氏名のご記入は記名台にてお願いいたします。

■事前参加登録をされた方へ

オンライン事前参加登録を完了されますと、オンライン登録画面より QR コードの入った「登録確認書」をご印刷いただけます。

当日は「登録確認書」についている QR コードを自動発券機(CARM)へかざしてください。
お名前・所属が印字されたネームカード、学会参加費 領収書、出席証明書が出力されます。

※登録確認書をお忘れにならないよう、ご注意ください。

※事前に登録確認書やネームカード・領収書の送付は行いませんのでご了承ください。

※学部学生の方でオンライン参加登録された方は、学術集会当日に、「総合案内・当日参加受付」にて学生証をご提示いただき、参加証をお受け取りください。

会期中は必ずネームカードを着用して会場にお入りください。

※ネームカード、出席証明書は再発行いたしかねますので紛失しないように大切に保管してください。

■プログラム・抄録集

プログラム・抄録集をご希望の方へ、下記金額で販売いたします。
残部がなくなった場合はご了承ください。

一冊 3,000 円

■情報交換会

日 時：11月30日(土) 19:00～21:00
場 所：都市センターホテル 5F オリオン(第2会場)
会 費：5,000 円 事前参加登録、もしくは、当日受付の際に総合受付にてお申し込みください。

■ コングレスバッグ

参加証に付随しております引換券をお持ちの上、都市センターホテル LF ロビー受付奥のコンGRESバッグ引換コーナーにお越しください。

■ 教育セミナーのご案内

お昼の教育セミナーについては、整理券（お弁当引換券）を各セミナー開催当日下午記要領にて配布します。

日 時：11月30日（土）7:30～11:30

12月1日（日） 7:30～11:30

場 所：都市センターホテル LF ロビー

数に限りがありますので、配布時間内でも整理券がなくなり次第終了とさせていただきます。予めご了承くださいますようお願いいたします。

なお、イブニング教育セミナーについては、整理券はありません。直接会場にお越しください。

■ クローク

日 時：11月30日（土）7:30～21:00

12月1日（日） 7:30～17:00

場 所：都市センターホテル 5F 蘭

※貴重品・傘・壊れ物はお預かり出来かねますので、ご自身にて管理願います。

■ 企業等展示

日 時：11月30日（土）9:00～18:40

12月1日（日） 9:00～16:50

場 所：都市センターホテル 3F ホワイエ

■ 単 位

下記講習会参加により以下の単位が認められます。

日本小児科学会 専門医制度（新制度）更新単位 ii 専門医共通講習 1単位

シンポジウム4「予防接種の教育啓発」

日 時：12月1日（日）15:35～16:45

場 所：都市センターホテル 3F コスモスホール（第1会場）

※単位取得には講演開始から完全に終了するまで（70分）受講いただく必要がございます。

■ お問い合わせ

事 務 局：国立感染症研究所 感染症疫学センター

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2

TEL：03-3508-1214 FAX：03-3508-1302

E-mail：jsvac23@convention.co.jp

学 会 行 事

■ Vaccine 誌編集委員会

日 時：11月29日（金）15:00～16:00

場 所：都市センターホテル 6F 605

■理 事 会

日 時：11月29日（金）16:00～18:00

場 所：都市センターホテル 6F 606

■新理事会

日 時：12月1日（日）7:15～7:45

場 所：都市センターホテル 6F 605

■総 会

日 時：11月30日（土）13:30～14:00

場 所：都市センターホテル 3F コスモスホール（第1会場）

（総会において学術集会若手奨励最優秀賞受賞者ならびに学術集会若手奨励賞の表彰式を行います）

■情報交換会

日 時：11月30日（土）19:00～21:00

場 所：都市センターホテル 5F オリオン（第2会場）

発表についてのご案内

■座長の皆様へのお願い

- ご担当のセッション開始予定時刻の10分前までに会場内右前方の次座長席にご着席ください。
- プログラムは非常にタイトなスケジュールで行われます。計時装置をご用意いたしますので、円滑な進行管理をお願いいたします。

■演者の皆様へのお願い

- 次演者は、発表10分前までに会場内左前方の次演者席へご着席ください。

• PC 受付について

発表者は、ご発表セッション開始予定30分前までにPC受付（都市センターホテル 5F スバル）まで発表用メディアをご持参いただき、来場チェックを受けてください。

日 時：11月30日（土）7:30～18:00

12月1日（日） 7:30～15:30

場 所：都市センターホテル5F スバル

• 発表時間・発表方法

セッション	発表時間
特別講演	事務局より別途ご連絡いたします。
シンポジウム	
教育セミナー	質疑を含めて50分
イブニングセミナー	質疑を含めて50分
モーニングセミナー	事務局より別途ご連絡いたします。
若手奨励賞受賞演題	発表7分／質疑3分
一般演題	発表7分／質疑3分

- お持ち込みいただけるメディアはUSBメモリのものとさせていただきます。PC本体のお持ち込みも可能です。
- 会場に用意するPCは、Windows10です。
- 対応可能なアプリケーションはWindows版PowerPoint2010・2013・2016・2019です。
- 動画ファイルを含む場合、Macintoshで作成したデータの場合、PC本体をお持ち込みください。
- その際は、一般的な15pinモニターケーブル（下図参照）に接続致しますので、必ず変換コネクタはお持ちくださいますようご注意ください。
- 事務局で用意したPC内にコピーした発表データにつきましては、発表終了後、学会事務局が責任を持って削除いたします。



■ 注意事項

- 2005年4月1日に施行された個人情報保護法に従い、日本ワクチン学会学術集会発表および参加に関し、日本ワクチン学会理事会として以下の内容を決定いたしました。これらの点につきましては遵守くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 発表に際し、個人が特定される可能性のある症例の氏名、イニシャル、ID 番号は発表しないようお願いいたします。
- 会場内での写真・ビデオ撮影・録音は禁止いたします。なお、学術集会指定の係員については除きます。

■ 発表時における利益相反(COI)の開示

共催セミナーを含むすべての発表に関し、筆頭演者および共同演者は発表する研究内容に関連する過去3年間の利益相反の開示が必要となります。下記の開示方法をご確認の上、発表時に提示くださいますようお願いいたします。

口演発表：発表の際に、筆頭演者、全ての共同演者の利益相反をスライドの2枚目(タイトルスライドの次)に開示をしてください。利益相反に関する詳細については、本学会ホームページ(<https://square.umin.ac.jp/jsvac23/>)にてご確認ください。

■ 学術集会若手奨励賞

今年度から、学術集会一般演題の発表内容が優れた演者に授与される賞として、学術集会若手奨励賞が設けられました。

本学術集会で一般演題を発表する40歳未満(2019年1月1日時点の年齢)の筆頭演者が対象となります。演題発表時点で日本ワクチン学会の会員であることを応募条件とし、本賞へ応募された一般演題から抄録内容審査により、「臨床応用系・疫学系」から2題、「基礎研究系・製造開発系」から2題、計4題の学術集会若手奨励賞受賞者が選出されます。

「学術集会若手奨励賞」を授与された発表者は、学術集会若手奨励賞受賞者講演セッション(11月30日(土) 9:55～10:45 3F コスモスホール(第1会場))にて演題発表を行っていただき、審査委員の審査により「学術集会若手奨励最優秀賞」1名を決定します。

学術集会若手奨励最優秀賞受賞者1名ならびに学術集会若手奨励賞3名の表彰式は、総会(11月30日(土) 13:30～14:00 3F コスモスホール(第1会場))にて行います。

学術集会若手奨励賞受賞演題については、プログラム、抄録集にてご確認ください。

高橋賞受賞者および受賞研究題名一覧

第1回日本ワクチン学会高橋賞（平成18年）

神谷 齊 先生

「水痘ワクチンの臨床研究および本邦における各種予防接種の普及啓発活動」

浅野 喜造 先生

「水痘・帯状疱疹ウイルス感染症制御に関する研究」

第2回日本ワクチン学会高橋賞（平成19年）

清野 宏 先生

「粘膜免疫学の創成と粘膜ワクチン開発への理論形成」

第3回日本ワクチン学会高橋賞（平成20年）

千葉 靖男 先生

「中国でのポリオ根絶計画の推進とポリオフリー達成の実証に関する研究」

第4回日本ワクチン学会高橋賞（平成21年）

田村 慎一 先生

「経鼻インフルエンザワクチンの基礎的研究」

第5回日本ワクチン学会高橋賞（平成22年）

富樫 武弘 先生

「ワクチン接種で予防可能な小児期感染症の診断・治療・予防に関する研究」

第6回日本ワクチン学会高橋賞（平成23年）

橋爪 壯 先生

「高度弱毒化細胞培養天然痘ワクチン LC16m8の開発」

第7回日本ワクチン学会高橋賞（平成24年）

尾崎 隆男 先生

「水痘・帯状疱疹ウイルスの体内動態と水痘ワクチンの免疫原性に関する研究」

第8回日本ワクチン学会高橋賞（平成25年）

廣田 良夫 先生

「インフルエンザワクチンの有効性に関する疫学研究」

第9回日本ワクチン学会高橋賞（平成26年）

植田 浩司 先生

「風疹・先天性風疹症候群の疫学・臨床及び予防に関する研究」

第10回日本ワクチン学会高橋賞（平成27年）

庵原 俊昭 先生

「各種ワクチン予防可能疾患の臨床免疫学および疫学の研究」

第11回日本ワクチン学会高橋賞（平成28年）

平山 宗宏 先生

「ポリオ生ワクチン導入に始まる各種ワクチンの評価、
感染症サーベイランス事業等に関する研究」

第12回日本ワクチン学会高橋賞(平成29年)

中山 哲夫 先生

「ワクチンの安全性に関する研究 —42歳からの基礎研究—」

第13回日本ワクチン学会高橋賞(平成30年)

岡部 信彦 先生

「わが国の疫学研究に裏付けられた予防接種施策の推進
—臨床・ラボ・サーベイランス・行政の橋渡しとして—」

第14回日本ワクチン学会高橋賞(令和元年)

喜田 宏 先生

「パンデミックインフルエンザワクチンの開発と実用化研究」

高橋奨励賞受賞者および受賞研究題名一覧

第1回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成24年）

相内 章 先生

「経鼻投与型インフルエンザワクチンの実用化に向けて」

第2回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成25年）

受賞者なし

第3回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成26年）

受賞者なし

第4回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成27年）

原 めぐみ 先生

「地域在住高齢者および施設入所高齢者におけるインフルエンザワクチンの有効性評価」

第5回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成28年）

大藤 さとこ 先生

「ハイリスク集団におけるインフルエンザワクチンの免疫原性・有効性評価」

鈴木 忠樹 先生

「粘膜ワクチンで誘導される分泌型 IgA 抗体の多量体構造と機能の解析」

第6回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成29年）

一戸 猛志 先生

「アジュバント併用経鼻インフルエンザワクチンに関する研究」

水上 拓郎 先生

「Systems Vaccinology によるワクチン及びアジュバントの次世代安全性評価法の開発」

第7回日本ワクチン学会高橋奨励賞（平成30年）

國澤 純 先生

「粘膜ワクチンの実用化に向けた粘膜免疫システムの基礎的解明と
ワクチンデリバリー・アジュバントの開発」

第8回日本ワクチン学会高橋奨励賞（令和元年）

木本 貴士 先生

「ヒトの生体成分肺サーファクタントの生理作用を利用した安全で有効な
新規粘膜アジュバント SF-10の開発」

1日目 11月30日土

	第1会場 3F コスモス	第2会場 5F オリオン	第3会場 6F 601	第4会場 6F 606
8:00	8:25~8:30 開会の辞 8:30~8:50 会長講演			
9:00	8:50~9:50 特別シンポジウム 風疹排除に向けて 座長：岡田 賢司、森 嘉生 演者：林 修一郎、市田 美保、小池 雄一	サーベイランスから対策へ ～有効性と安全性の両輪で考える ワクチン元年～ 座長：山西 弘一 演者：多屋 馨子		各種開催時間のご案内 参加受付 7:30～18:00 (LF ロビー) クローク 7:30～21:00 (5F 蘭) PC 受付 7:30～18:00 (5F スバル) 企業等展示 9:00～18:40 (3F ホワイエ)
10:00	9:55~10:45 学術集会若手奨励賞 受賞者講演 座長：長谷川 秀樹、石和田 稔彦			
11:00	10:50~11:50 シンポジウム 1 肝炎とがんワクチン 座長：石井 健、鈴木 忠樹 演者：松浦 善治、考藤 達哉			
12:00	12:00~12:50 教育セミナー 1 Building Vaccine Confidence by Strengthening Immunization Systems 座長：齋藤 昭彦 演者：Chimeremma Nnadi 共催：MSD 株式会社	12:00~12:50 教育セミナー 2 DTaP-sIPV に 求められている課題 座長：尾崎 隆男 演者：岡田 賢司 共催：田辺三菱製薬株式会社	12:00~12:50 教育セミナー 3 インフルエンザの予防： ワクチンと抗インフルエンザ薬 座長：原 めぐみ 演者：池松 秀之 共催：第一三共株式会社	12:00~12:50 教育セミナー 4 ロタウイルスワクチンの 最新知見 ～ウイルス研究と 定期接種化を踏まえた課題～ 座長：菅谷 明則 演者：谷口 孝喜 共催：グラクソ・スミスクライン 株式会社
13:00	13:00~13:30 韓国ワクチン学会招聘講演 13:30~14:00 総会 学術集会若手奨励賞授賞式	The changing epidemiology of herpes zoster over a decade in Korea 座長：大石 和徳 演者：Sun Hee Park		
14:00	14:00~15:00 高橋賞・高橋奨励賞 受賞記念講演 座長：大石 和徳、多屋 馨子	第14回高橋賞受賞記念講演 演者：喜田 宏 第8回高橋奨励賞受賞記念講演 演者：木本 貴士		
15:00	15:10~16:20 特別講演 How to Communicate Vaccine Science to the Public-Or Die Trying 座長：岡部 信彦 演者：Paul A.Offit	15:10~16:20 第1会場中継		
17:00	16:30~17:40 一般演題 1 アジュバント・ インフルエンザワクチン 座長：奥野 良信、岡田 直貴	16:30~17:20 一般演題 2 風疹含有ワクチン 座長：宮崎 千明、谷口 清州	16:30~17:40 一般演題 3 アジュバント・粘膜ワクチン ・BCGワクチン 座長：保野 哲朗 通山 哲郎	16:30~17:40 一般演題 4 百日咳を含む呼吸器感 染症ワクチン・アデノウイ ルス・エンテロウイルス 座長：藤本 嗣人 大塚 菜緒
18:00	17:50~18:40 イブニング教育セミナー 1 インフルエンザ脳症の診療戦略 ～疫学・病態の解析から治療法の確立へ～ 座長：吉川 哲史 演者：森島 恒雄 共催：武田薬品工業株式会社		17:50~18:40 イブニング教育セミナー 2 マスギャザリングと 侵襲性髄膜炎菌感染症 座長：岡田 賢司 演者：神谷 元 共催：サノフィ株式会社	
19:00		19:00~21:00 情報交換会		

2日目 12月1日

	第1会場 3F コスモス	第2会場 5F オリオン	第3会場 6F 601	第4会場 6F 606
8:00	8:00~8:50 モーニングセミナー 麻疹排除認定維持の課題 座長：竹田 誠、砂川 富正 演者：仁平 稔、原 康之、 岡部 信彦			
9:00	9:00~10:30 一般演題 5 インフルエンザワクチン 座長：小田切 孝人 福島 若葉	9:00~9:40 一般演題 6 ロタウイルスワクチン 座長：谷口 孝喜 羽田 敦子 9:40~10:30 一般演題 7 肝炎ワクチン・ワクチン疫学 座長：西條 政幸 鈴木 基	9:00~10:30 一般演題 8 おたふくかぜワクチン・ 水痘帯状疱疹ワクチン 座長：吉川 哲史 西村 直子	9:00~10:30 一般演題 9 肺炎球菌ワクチン・ 髄膜炎菌ワクチン 座長：永井 英明 西 順一郎
10:00				
11:00	10:40~11:50 予防接種推進専門協議会 共催シンポジウム 真のワクチンギャップ解消に向けて (今後の展開が期待されるワクチン) 座長：岩田 敏、中山 哲夫 演者：西村 直子、河本 聡志、 岡田 賢司	10:40~11:50 シンポジウム 2 新しいワクチンサイエンス 座長：森 康子 演者：國澤 純 石井 健		
12:00	12:00~12:50 教育セミナー 5 ポリオ〜根絶計画の現状と 追加免疫の必要性 座長：宮崎 千明 演者：中野 貴司 共催：サノフィ株式会社	12:00~12:50 教育セミナー 6 带状疱疹は、どう変わってきたか？ 119,053例（1997-2018）の「宮崎 スタディ」よりみる水痘ワクチン定 期接種化後の带状疱疹疫学動向	12:00~12:50 教育セミナー 7 妊婦及び乳幼児に対するインフル エンザワクチンの有効性と安全性 座長：廣田 良夫 演者：大藤さとこ、福島 若葉 共催：デンカ生研株式会社	12:00~12:50 教育セミナー 8 海外に出かける日本人、 日本にやってきた外国人 座長：岡田 賢司 演者：田中 孝明 共催：Meiji Seika ファルマ株式会社/ KMバイオロジクス株式会社
13:00	13:00~13:40 一般演題 10 HPVワクチン・リスクコミュニケーション 座長：中島 一敏、齋藤 昭彦	座長：吉川 哲史 演者：外山 望 共催：一般財団法人 阪大微生物病研究会	13:00~13:50 一般演題 11 組換えワクチン・ 新しいワクチン研究 座長：保富 康宏、井上 直樹	13:00~13:50 一般演題 12 麻疹含有ワクチン・ 医療従事者のワクチン 座長：菅 秀、神谷 元
14:00	14:00~15:20 シンポジウム 3 国際化とワクチン 座長：中野 貴司、勝田 友博 演者：谷口 清州、田中 孝明、 清水 博之、高島 義裕	14:00~15:20 第1会場中継		
15:00				
16:00	15:35~16:45 シンポジウム 4 予防接種の教育啓発 (専門医共通講習) 座長：崎山 弘、杉下 由行 演者：松岡 康子、齋藤 あや、 砂川 富正、神谷 元 16:45~16:50 閉会の辞			各種開催時間のご案内 参加受付 7:30~15:30 (LF ロビー) クローク 7:30~17:00 (5F 蘭) PC 受付 7:30~15:30 (5F スパル) 企業等展示 9:00~16:50 (3F ホワイエ)
17:00				

プログラム

第1日目 11月30日(土)

第1会場(3F コスモス)

開会の辞 8:25～8:30

会長講演 8:30～8:50

座長：山西 弘一(一般財団法人 阪大微生物病研究会)

サーベイランスから対策へ ～有効性と安全性の両輪で考えるワクチン元年～

多屋 馨子 国立感染症研究所 感染症疫学センター

特別シンポジウム 8:50～9:50

座長：岡田 賢司(福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野、
福岡歯科大学 医科歯科総合病院 予防接種センター)

森 嘉生(国立感染症研究所 ウイルス第三部)

[風疹排除に向けて]

SSY-1 風しん5期接種の実施に当たって

○林 修一郎

厚生労働省健康局健康課予防接種室

SSY-2 船橋市(中核市)における風疹対策の取り組みの現状と課題

○市田 美保、松野 朝之、筒井 勝

船橋市保健所

SSY-3 ANA グループにおける風疹感染予防に向けた取り組み

○小池 雄一

全日本空輸株式会社 人財戦略室労政部

座長：長谷川 秀樹(国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター)
石和田 稔彦(千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御プロジェクト)

YIA-1 鼻腔内投与されたヒドロキシプロピル- β -シクロデキストリン(HP-b-CD)はIL-33を介してワクチンアジュバントとして作用する。

○小張 真吾¹⁾、日下部 峻斗¹⁾、百田 匡寿¹⁾、柴原 理志¹⁾、林 智哉¹⁾、黒田 悦史¹⁾²⁾、石井 健¹⁾³⁾

1)国立開発研究法人 医薬基盤研究所 アジュバント開発プロジェクト、2)兵庫医科大学 免疫学教室、
3)東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野

YIA-2 アジュバント開発を目指したゲノミクス技術によるワクチン・アジュバントの有効性・安全性プロファイル予測評価システムの開発

○佐々木 永太¹⁾、浅沼 秀樹²⁾、百瀬 暖佳¹⁾、古畑 啓子¹⁾、水上 拓郎¹⁾、浜口 功¹⁾

1)国立感染症研究所 血液・安全性研究部、2)国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター

YIA-3 症例対照研究によるロタウイルスワクチンの有効性評価(2019シーズン)

○荒木 薫¹⁾、原 めぐみ²⁾、青木 オー志³⁾、牟田 広実⁴⁾

1)佐賀大学 医学部 小児科、2)佐賀大学 医学部 社会医学講座予防医学分野、3)あおき小児科、
4)いづかこども診療所

YIA-4 小児におけるインフルエンザワクチン有効性および連続接種の影響に関する検討(2016/17および2017/18)

○松本 一寛¹⁾²⁾、福島 若葉¹⁾²⁾、森川 佐依子³⁾、廣井 聡³⁾、中田 恵子³⁾、加瀬 哲男¹⁾²⁾、大藤 さとこ¹⁾²⁾、近藤 亨子¹⁾²⁾、前田 章子¹⁾²⁾、伊藤 一弥⁴⁾、廣田 良夫⁴⁾⁵⁾、インフルエンザワクチン 有効性モニタリンググループ¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学、2)大阪市立大学大学院医学研究科感染症科学研究センター、
3)大阪健康安全基盤研究所、4)保健医療経営大学、5)医療法人相生会臨床疫学研究センター

シンポジウム1 10:50～11:50

座長：石井 健(東京大学 医科学研究所 ワクチン科学分野)
鈴木 忠樹(国立感染症研究所 感染病理部)

[肝炎とがんとワクチン]

SY-1-1 C型肝炎対策の残された課題

○松浦 善治

大阪大学 微生物病研究所 分子ウイルス分野

SY-1-2 B型肝炎ウイルス感染症の制御を目指したHBワクチン免疫応答の解明

○考藤 達哉

国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター

LS-1 Building Vaccine Confidence by Strengthening Immunization Systems

Chimeremma Nnadi Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.

韓国ワクチン学会招聘講演 13:00～13:30

座長：大石 和徳（富山県衛生研究所）

The changing epidemiology of herpes zoster over a decade in Korea

Sun Hee Park Division of Infectious Diseases, Department of Internal Medicine,
College of Medicine, The Catholic University of Korea, Seoul, Republic of Korea

総会 13:30～14:00

学術集会若手奨励最優秀賞、学術集会若手奨励賞の表彰式は、総会において実施します。

高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演 14:00～15:00

座長：大石 和徳（富山県衛生研究所）

多屋 馨子（国立感染症研究所 感染症疫学センター）

第14回高橋賞受賞記念講演

パンデミックインフルエンザワクチンの開発と実用化研究

喜田 宏 国立大学法人北海道大学ユニバーシティプロフェッサー
人獣共通感染症リサーチセンター 特別招聘教授 統括
国立大学法人長崎大学感染症共同研究拠点 拠点長

第8回高橋奨励賞受賞記念講演

ヒトの生体成分肺サーファクタントの生理作用を利用した 安全で有効な新規粘膜アジュバント SF-10の開発

木本 貴士 徳島大学 先端酵素学研究所 生体防御病態代謝研究分野

How to Communicate Vaccine Science to the Public--Or Die Trying

Paul A. Offit The University of Pennsylvania,
Children's Hospital of Philadelphia

イブニング教育セミナー1 17:50～18:40

共催：武田薬品工業株式会社

座長：吉川 哲史（藤田医科大学 医学部 小児科学）

ES-1 インフルエンザ脳症の診療戦略 ―疫学・病態の解析から治療法の確立へ―

森島 恒雄 愛知医科大学、岡山大学（名誉教授）

第2会場（5F オリオン）

教育セミナー2 12:00～12:50

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：尾崎 隆男（江南厚生病院 こども医療センター）

LS-2 DTaP-sIPV に求められている課題

岡田 賢司 福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野、
福岡歯科大学 医科歯科総合病院 予防接種センター

第1会場中継 15:10～16:20

情報交換会 19:00～21:00

第3会場(6F 601)

教育セミナー3 12:00～12:50

共催：第一三共株式会社

座長：原 めぐみ(佐賀大学医学部 社会医学講座予防医学分野)

LS-3 インフルエンザの予防：ワクチンと抗インフルエンザ薬

池松 秀之 日本臨床内科学会 インフルエンザ研究班リサーチディレクター

イブニング教育セミナー2 17:50～18:40

共催：サノフィ株式会社

座長：岡田 賢司(福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野、
福岡歯科大学 医科歯科総合病院 予防接種センター)

ES-2 マスギャザリングと侵襲性髄膜炎菌感染症

神谷 元 国立感染症研究所 感染症疫学センター

第4会場(6F 606)

教育セミナー4 12:00～12:50

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

座長：菅谷 明則(すがやこどもクリニック 院長)

LS-4 ロタウイルスワクチンの最新知見 ～ウイルス研究と定期接種化を踏まえた課題～

谷口 孝喜 藤田医科大学 名誉教授

第2日目 12月1日(日)

第1会場(3F コスモス)

モーニングセミナー 8:00~8:50

座長：竹田 誠(国立感染症研究所 ウイルス第三部)

砂川 富正(国立感染症研究所 感染症疫学センター)

[麻疹排除認定維持の課題]

MS-1 2018年に沖縄県で発生した外国人観光客を発端とした麻疹アウトブレイク

○仁平 稔¹⁾²⁾、伊波 善之²⁾、山内 美幸²⁾、川上 佳乃¹⁾、久高 潤¹⁾、神谷 元³⁾、
砂川 富正³⁾、新城 光雄¹⁾、山川 宗貞¹⁾、糸数 公¹⁾

1) 沖縄県保健医療部、2) 沖縄県衛生環境研究所、

3) 国立感染症研究所 感染症疫学センター

MS-2 三重県におけるワクチン接種率が低い集団を発端とした麻疹アウトブレイク

○原 康之

三重県保健環境研究所 企画調整室 疫学研究課

MS-3 改めて考える、麻疹排除は誰のため、何のため？

○岡部 信彦

川崎市健康安全研究所

予防接種推進専門協議会共催シンポジウム 10:40~11:50

座長：岩田 敏(国立がん研究センター 中央病院 感染症部)

中山 哲夫(北里生命科学研究所)

[真のワクチンギャップ解消に向けて(今後の展開が期待されるワクチン)]

Co-SY-1 なぜ、ムンプスワクチンは定期接種化されないのか

○西村 直子

江南厚生病院 こども医療センター

Co-SY-2 ロタウイルスワクチン

○河本 聡志

藤田医科大学 医学部 ウイルス・寄生虫学講座

Co-SY-3 百日咳含有ワクチンと不活化ポリオワクチン —2期接種の必要性和年齢をエビデンスを基に考える—

○岡田 賢司¹⁾²⁾

1) 福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野、

2) 福岡歯科大学 医科歯科総合病院 予防接種センター

LS-5 ポリオ～根絶計画の現状と追加免疫の必要性

中野 貴司 川崎医科大学 小児科学

シンポジウム3 14:00～15:20

座長：中野 貴司（川崎医科大学 小児科学）

勝田 友博（聖マリアンナ医科大学 医学部医学科 小児科）

〔国際化とワクチン〕

SY-3-1 マスギャザリングとワクチン

○谷口 清州

独立行政法人国立病院機構三重病院

SY-3-2 海外渡航者のためのワクチン

○田中 孝明

川崎医科大学 小児科学

SY-3-3 世界ポリオ根絶計画最終段階におけるワクチン戦略

○清水 博之

国立感染症研究所 ウイルス第二部

SY-3-4 VPD 制圧のための国際的な取り組みと日本のワクチン戦略

○高島 義裕

Vaccine-Preventable Disease and Immunization, Division of Programmes for Disease Control,
Regional Office for the Western Pacific, World Health Organization

シンポジウム4 15:35～16:45

座長：崎山 弘（崎山小児科）

杉下 由行（東京都福祉健康局 医療政策部医療安全課）

〔予防接種の教育啓発（専門医共通講習）〕

SY-4-1 『たった1本のワクチンで防ぐことができたのに ...』をなくすために

○松岡 康子

NHK 名古屋放送局

SY-4-2 保護者への効果的な予防接種教育のタイミング

○齋藤 あや

新潟大学医学部保健学科

SY-4-3 国内外の Vaccine hesitancy に関する状況

○砂川 富正

国立感染症研究所 感染症疫学センター

SY-4-4 予防接種従事者への教育の重要性

○神谷 元

国立感染症研究所 感染症疫学センター

閉会の辞 16:45～16:50

第2会場(5F オリオン)

シンポジウム2 10:40～11:50

座長：森 康子（神戸大学大学院医学研究科 微生物感染症学講座 臨床ウイルス学分野）

〔新しいワクチンサイエンス〕

SY-2-1 腸内環境から考える新しいワクチン学

○國澤 純

医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチン・アジュバント研究センター

SY-2-2 機械学習と免疫学を駆使したワクチンサイエンス

○石井 健¹⁾²⁾³⁾

- 1) 東京大学 医科学研究所 ワクチン科学分野、
- 2) 医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチン・アジュバント研究センター、
- 3) 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター

教育セミナー6 12:00～12:50

共催：一般財団法人 阪大微生物病研究会

座長：吉川 哲史（藤田医科大学 医学部 小児科学）

LS-6 帯状疱疹は、どう変わってきたか？

119,053例（1997-2018）の「宮崎スタディ」よりみる
水痘ワクチン定期接種化後の帯状疱疹疫学動向

外山 望 医療法人 外山皮膚科

第1会場中継 14:00～15:20

第3会場(6F 601)

教育セミナー7 12:00～12:50

共催：デンカ生研株式会社

座長：廣田 良夫(保健医療経営大学)

LS-7 妊婦及び乳幼児に対するインフルエンザワクチンの有効性と安全性

大藤 さとこ 大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学 感染症科学研究センター
福島 若葉 大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学 感染症科学研究センター

第4会場(6F 606)

教育セミナー8 12:00～12:50

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社／KM バイオロジクス株式会社

座長：岡田 賢司(福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門基礎分野、
福岡歯科大学 医科歯科総合病院 予防接種センター)

LS-8 海外に出かける日本人、日本にやってきた外国人

田中 孝明 川崎医科大学 小児科学

一般演題 プログラム

第1日目 11月30日(土)

一般演題1 16:30～17:40

第1会場(3F コスモス)

[インフルエンザワクチン・アジュバント]

座長：奥野 良信(地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所)

岡田 直貴(大阪大学大学院薬学研究科ワクチン・免疫制御学プロジェクト)

1-1-01 外気温が経鼻インフルエンザワクチンの効果に与える影響の解析

○一戸 猛志、森山 美優

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター ウイルス学分野

1-1-02 経鼻不活化インフルエンザワクチンにおける大腸菌 Nissle 1917 株外膜小胞の粘膜アジュバントとしての利用

○齋藤 訓平¹⁾²⁾、相内 章¹⁾、平山 悟³⁾、鈴木 忠樹¹⁾、西山 千春²⁾、中尾 龍馬³⁾、長谷川 秀樹¹⁾

1) 国立感染症研究所 感染病理部、2) 東京理科大学大学院 基礎工学研究科 生物工学専攻、

3) 国立感染症研究所 細菌第一部

1-1-03 HP- β シクロデキストリン添加型季節性インフルエンザワクチンの第I相臨床試験：安全性及び免疫原性評価

○渡邊 あかね¹⁾、西田 純幸¹⁾、日下部 峻斗²⁾、黒田 悦史²⁾、石井 健²⁾³⁾、熊ノ郷 淳¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科 免疫内科、2) 医薬基盤・健康・栄養研究所 アジュバント開発プロジェクト、

3) 東京大学医科学研究所 ワクチン科学分野

1-1-04 経皮投与した Imiquimod のアジュバント活性および皮膚内動態に関する基礎的検討

○山咲 太希¹⁾、伊藤 沙耶美¹⁾、福井 裕毅²⁾、間 久直²⁾、栗津 邦男²⁾³⁾⁴⁾、立花 雅史¹⁾、岡田 直貴¹⁾

1) 大阪大学大学院 薬学研究科 ワクチン・免疫制御学プロジェクト、

2) 大阪大学大学院工学研究科量子ビーム応用工学領域、3) 大阪大学大学院生命機能研究科、

4) 大阪大学国際医工情報センター

1-1-05 マイクロニードルを用いた経皮免疫誘導における皮膚常在性抗原提示細胞の寄与

○川北 拓人¹⁾、伊藤 沙耶美¹⁾、立花 雅史¹⁾²⁾、岡田 直貴¹⁾²⁾

1) 大阪大学大学院 薬学研究科 ワクチン・免疫制御学プロジェクト、

2) 大阪大学大学院 薬学研究科 ワクチン・免疫制御学(BIKEN)共同研究講座

1-1-06 近赤外光を用いた新規アジュバントの研究

○君塚 善文¹⁾²⁾、片桐 渉²⁾、櫛引 俊宏³⁾、槇 陽平¹⁾、佐野 友哉¹⁾、佐々木 寿¹⁾、長 盛親¹⁾、柏木 哲²⁾、川名 明彦¹⁾

1) 防衛医科大学校 内科学講座(感染症・呼吸器)、

2) Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School、3) 防衛医科大学校 医用工学講座

1-1-07 植物由来熱水抽出エキスのアジュバント活性評価

○日置 仰¹⁾²⁾、石井 健¹⁾²⁾、川原 信夫³⁾

1) 東京大学 医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野、

2) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチン・アジュバント研究センター アジュバント開発プロジェクト、

3) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源センター

[風疹含有ワクチン]

座長：宮崎 千明(福岡市立心身障がい福祉センター)
谷口 清州(国立病院機構三重病院 臨床研究部)

1-2-01 千葉市における大学・行政・医師会が連携した風疹対策共同研究事業

○竹下 健一¹⁾、竹内 典子¹⁾、大畑 美穂子¹⁾、大楠 美佐子¹⁾、末廣 真美子²⁾、前嶋 寿²⁾、
阿部 博紀³⁾、太田 文夫³⁾、大濱 洋一³⁾、玉井 和人³⁾、原木 真名³⁾、石和田 稔彦¹⁾

1)千葉大学 真菌医学研究センター 感染症制御分野、2)千葉市保健所 感染症対策課、3)千葉市医師会

**1-2-02 風疹ワクチン接種および風疹全国流行で生じた免疫の血清疫学的研究
—臨床検査会社の抗体検査データを使った解析**

○井上 栄

国立感染症研究所 名誉所員

1-2-03 最近6年間における産後 MR ワクチン任意接種での抗体獲得評価

○後藤 泰浩¹⁾、菊池 均²⁾、宮津 光伸²⁾

1)社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院 小児科、2)名古屋鉄道健康保険組合 名鉄病院 予防接種センター

**1-2-04 ベトナムにおける MR ワクチンキャンペーンおよび定期接種化の前後での
妊婦の風疹抗体保有率および先天性風疹感染児出生率の変化**

○田中 沙紀¹⁾、北村 則子¹⁾、樋泉 道子¹⁾、吉田 レイミント¹⁾、森内 昌子²⁾、森内 浩幸²⁾、
Duc Anh Dang³⁾

1)長崎大学 熱帯医学研究所 小児感染症学分野、2)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児科学、

3)National Institute of Hygiene and Epidemiology, Vietnam

1-2-05 小学生、中学生における風しんワクチン2期接種導入後の風疹抗体価について

○康井 洋介¹⁾²⁾、徳村 光昭¹⁾、井ノ口 美香子¹⁾、内田 敬子¹⁾、有馬 ふじ代¹⁾、長嶋 由佳¹⁾、
中山 哲夫²⁾

1)慶應義塾大学 保健管理センター、2)北里生命科学研究所 ウイルス感染制御学教室 II

[アジュバント・粘膜ワクチン・BCG ワクチン]

座長：保野 哲朗(国立感染症研究所 エイズ研究センター)
通山 哲郎(一般財団法人 阪大微生物病研究会)

**1-3-01 新規結核菌抗原 MDP1と CpG ODN G9.1アジュバントからなる
結核ブースターワクチンのモルモットに対する有効性の検討**

○山本 十糸子¹⁾²⁾、林 大介¹⁾²⁾、大石 紳二¹⁾²⁾、山崎 利雄²⁾、前山 順一²⁾、尾関 百合子³⁾、
松本 壮吉³⁾、伊保 澄子⁴⁾、鈴木 史子⁴⁾、後藤 義孝⁵⁾、岡林 環樹⁵⁾、
Mawar Subangkit⁵⁾、山本 三郎¹⁾²⁾

1)日本 BCG 研究所、2)国立感染症研究所、3)新潟大学医学部、4)福井大学医学部、5)宮崎大学農学部

**1-3-02 新規結核菌抗原 MDP1と CpG ODN G9.1アジュバントからなる
結核ブースターワクチンのカニクイザルに対する有効性の検討**

○山本 三郎¹⁾²⁾、林 大介¹⁾²⁾、山本 十糸子¹⁾²⁾、大石 紳二¹⁾²⁾、岡林 佐知²⁾、前山 順一²⁾、
山崎 利雄²⁾、網 康至²⁾、須崎 百合子²⁾、横山 晃³⁾、尾関 百合子³⁾、松本 壮吉³⁾、
伊保 澄子⁴⁾、後藤 義孝⁵⁾、Mawar Subangkit⁵⁾

1)日本 BCG 研究所、2)国立感染症研究所、3)新潟大学医学部、4)福井大学医学部、5)宮崎大学農学部

1-3-03 CpG 核酸とアラムの混合アジュバントによるインフルエンザワクチンの交差反応性評価

○澁谷 銘人¹⁾²⁾、吉岡 靖雄¹⁾²⁾³⁾⁴⁾

1) 大阪大学大学院 薬学研究科 創薬ナノデザイン学分野、2) 大阪大学微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト、
3) 一般財団法人阪大微生物病研究会 BIKEN 次世代ワクチン開発研究センター、4) 大阪大学国際医工情報センター

1-3-04 CpG 核酸封入脂質ナノ粒子を用いたインフルエンザワクチンの有効性評価

○白井 星記¹⁾²⁾、澁谷 銘人¹⁾²⁾、河合 惇志¹⁾²⁾、鈴木 亮³⁾、青枝 大貴⁴⁾⁵⁾、
吉岡 靖雄¹⁾²⁾⁴⁾⁶⁾

1) 大阪大学大学院 薬学研究科 創薬ナノデザイン学分野、2) 大阪大学微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト、
3) 帝京大学 薬学部、4) 一般財団法人阪大微生物病研究会 BIKEN 次世代ワクチン開発研究センター、
5) 大阪大学微生物病研究所 ワクチン動態プロジェクト、6) 大阪大学国際医工情報センター

1-3-05 動脈硬化症に対する免疫寛容ワクチンの開発研究

○小檜山 康司¹⁾、Winkels Holger²⁾、記村 貴之²⁾、石井 健¹⁾、Ley Klaus²⁾

1) 東京大学医科学研究所感染・免疫部門ワクチン科学分野、
2) Division of Inflammation Biology, La Jolla Institute for Immunology

1-3-06 細菌様粒子 (BLP) を抗原送達体として用いる経口粘膜ワクチン系の構築とその免疫誘導能の検討

○徳納 渚沙、高橋 圭太、折戸 希、柳澤 大貴、井上 直樹

岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻 生命薬学大講座 感染制御学研究室

1-3-07 ヒト生体成分肺サーファクタント由来人工合成 SF-10 アジュバントは、乳幼児期に長期感染防御免疫を誘導できる経口アジュバントである。

○木本 貴士¹⁾、堺 聡子¹⁾、亀田 桂子¹⁾²⁾、森田 涼子¹⁾、高橋 悦久¹⁾、木戸 博¹⁾

1) 徳島大学 先端酵素学研究所 生体防御病態代謝、2) 国立病院機構三重病院 アレルギーセンター

一般演題4 16:30～17:40

第4会場 (6F 606)

[百日咳を含む呼吸器感染症ワクチン・アデノウイルス・エンテロウイルス]

座長：藤本 嗣人 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)

大塚 菜緒 (国立感染症研究所 細菌第二部)

1-4-01 百日咳の流行下における乳幼児期に接種された百日咳含有ワクチンの有効性—高知県

○土橋 西紀¹⁾、神谷 元¹⁾、八幡 裕一郎¹⁾、松本 道明²⁾、森畑 東洋一³⁾、砂川 富正¹⁾

1) 国立感染症研究所、2) 高知県衛生環境研究所、3) もりはた小児科

1-4-02 2018年1月以降に当院で実験室診断された小児百日咳

○福田 悠人¹⁾、西村 直子¹⁾、長谷川 眞子¹⁾、赤野 琢也¹⁾、高尾 洋輝¹⁾、吉兼 綾美¹⁾、
伊藤 卓冬¹⁾、鬼頭 周大¹⁾、野口 智靖¹⁾、後藤 研誠¹⁾、竹本 康二¹⁾、河内 誠²⁾、
舟橋 恵二²⁾、尾崎 隆男¹⁾

1) 江南厚生病院 こども医療センター、2) 江南厚生病院 臨床検査技術科

1-4-03 RS ウイルスワクチン導入後の評価に向けた RS ウイルス感染症サーベイランスの課題と今後

○加納 和彦、高橋 琢理、土橋 西紀、砂川 富正

国立感染症研究所 感染症疫学センター

1-4-04 キメラ麻疹ウイルス MV/RSV の投与回数による免疫原性の比較検討

○澤田 成史¹⁾、伊藤 尚志²⁾、中山 哲夫²⁾、片山 和彦¹⁾

1) 北里大学 北里生命科学研究所 ウイルス感染制御学研究室Ⅰ、

2) 北里大学 北里生命科学研究所 ウイルス感染制御学研究室Ⅱ

1-4-05 アデノウイルスワクチンの現状と課題

○花岡 希¹⁾、高橋 健一郎¹⁾²⁾、藤本 嗣人¹⁾

1) 国立感染症研究所 感染症疫学センター 第四室、2) 東京女子医科大学東医療センター 小児科

1-4-06 複数のウイルス糖尿病感受性遺伝子を有するマウスを用いた潜在的糖尿病誘発性コクサッキー B 群ウイルス同定の試み

○永淵 正法¹⁾、皆川 洋子²⁾

1) 佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科、2) 愛知県衛生研究所 生物学部 ウイルス研究室

1-4-07 手足口病 VLP ワクチンの開発

○篠原 恭子、桑原 宗一郎、中村 朋史、山本 康之、渡辺 晶子、柏原 秋穂、八木 悠夏、千葉 茜、山西 弘一、落合 晋

一般財団法人 阪大微生物病研究会

第2日目 12月1日(日)

一般演題5 9:00～10:30

第1会場(3F コスモス)

[インフルエンザワクチン]

座長：小田切 孝人(東北文化学園大学 医療福祉学部 看護学科)
福島 若葉(大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学)

2-1-01 細胞培養季節性インフルエンザワクチン実用化への取り組み

○信澤 枝里、高橋 仁、浜本 いつき、有田 知子
国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター

2-1-02 インフルエンザワクチン株の HA 収量を左右する要因の探索

○有田 知子、鈴木 康司、小田切 孝人、田代 真人、信澤 枝里
国立感染症研究所

2-1-03 Neuraminidase を標的としたインフルエンザワクチンの有用性評価

○河合 惇志¹⁾²⁾、長町 萌香¹⁾²⁾、吉岡 靖雄¹⁾²⁾³⁾⁴⁾
1)大阪大学大学院 大学院 創薬ナノデザイン学分野、2)大阪大学微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト、
3)一般財団法人阪大微生物研究会 BIKEN 次世代ワクチン開発研究センター、4)大阪大学国際医工情報センター

2-1-04 経鼻接種型不活化ワクチンと皮下接種型不活化ワクチンにより誘導された抗インフルエンザ抗体の質についての比較解析

○佐野 芳¹⁾²⁾、黒澤 信幸³⁾、齊藤 慎二⁴⁾、相内 章¹⁾、鈴木 忠樹¹⁾、磯部 正治³⁾、
長谷川 秀樹¹⁾²⁾⁴⁾
1)国立感染症研究所 感染病理部、2)東北大学大学院医学系研究科 グローバル感染症学講座 感染症病理学分野、
3)富山大学大学院理工学研究部 遺伝情報学講座、4)国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター

2-1-05 インフルエンザ罹患患児の監護者における血清抗体・細胞性免疫応答経時推移

○熊谷 卓司¹⁾、中山 哲夫²⁾、森川 佐依子³⁾、奥野 良信³⁾、加瀬 哲男⁴⁾、瀬藤 律子⁵⁾、
迫田 義博⁶⁾、喜田 宏⁷⁾、管 秀⁸⁾
1)医療法人社団恒仁会くまがいの小児科、2)北里生命科学研究所、3)大阪健康安全研究所、
4)大阪市立大学公衆衛生、5)(財)阪大微生物病研究会、6)北大獣医院微生物、
7)北大人獣共通感染症リサーチセンター、8)国立病院機構三重病院

2-1-06 成人におけるインフルエンザワクチン接種後のサイトカイン産生能

○中山 哲夫¹⁾、山路 祥晃¹⁾、康井 洋介¹⁾、澤田 成史²⁾、伊藤 尚志¹⁾、熊谷 卓司³⁾
1)北里生命科学研究所 ウイルス感染制御Ⅱ、2)北里生命科学研究所 ウイルス感染制御Ⅰ、3)くまがいの小児科

2-1-07 インフルエンザワクチンによるウイルス排泄量減少効果

○加瀬 哲男¹⁾²⁾、森川 佐依子³⁾、迎 恵美子¹⁾²⁾、廣井 聡³⁾、中田 恵子³⁾、大藤 さとこ¹⁾²⁾、
前田 章子¹⁾、近藤 享子⁴⁾、伊藤 一弥⁵⁾、廣田 良夫⁵⁾、福島 若葉¹⁾²⁾、
インフルエンザワクチン有効性モニタリンググループ¹⁾
1)大阪市立大学大学院 医学研究科 公衆衛生学、2)大阪市立大学大学院 医学研究科 感染症科学研究センター、
3)大阪健康安全基盤研究所 ウイルス課、4)大阪市立大学医学部 附属病院運営本部、5)保健医療経営大学

2-1-08 小児におけるインフルエンザ罹患前後の鼻汁中インフルエンザ特異的 IgA 抗体の動態

○杉浦 勝美
国立病院機構三重病院 小児科

2-1-09 妊婦におけるインフルエンザワクチンの安全性：妊娠転帰に対する影響

○大藤 さとこ¹⁾²⁾、出口 昌昭³⁾、橘 大介⁴⁾、古山 将康⁴⁾、高木 哲⁵⁾、吉岡 隆之⁶⁾、
浦江 明憲⁶⁾、伊藤 一弥¹⁾⁷⁾、加瀬 哲男¹⁾²⁾、前田 章子¹⁾、近藤 亨子⁸⁾、福島 若葉¹⁾²⁾、
廣田 良夫⁷⁾、Osaka Pregnant Influenza Study⁹⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学、2) 大阪市立大学大学院医学研究科 感染症科学研究センター、
3) 市立岸和田市民病院 産婦人科、4) 大阪市立大学大学院医学研究科 産婦人科、5) 高木レディスクリニック、
6) 株式会社メディサイエンスプランニング、7) 保健医療経営大学、8) 大阪市立大学医学部附属病院 運営本部、
9) Osaka Pregnant Women Influenza Study Group

一般演題6 9:00～9:40

第2会場(5F オリオン)

[ロタウイルスワクチン]

座長：谷口 孝喜(藤田医科大学 医学部 ウイルス・寄生虫学)

羽田 敦子(公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 感染症科)

2-2-01 重症複合型免疫不全患児から排泄された RV1 ワクチン株の院内伝播

○三浦 浩樹¹⁾、井平 勝²⁾、小澤 慶¹⁾、河村 吉紀¹⁾、服部 文彦³⁾、吉川 哲史¹⁾

1) 藤田医科大学 医学部 小児科学、2) 藤田医科大学 医療科学部 臨床工学科、3) 刈谷豊田総合病院 小児科

2-2-02 ロタウイルスワクチンの接種に関連する要因についての検討

○原 めぐみ¹⁾、越田 理恵²⁾、荒木 薫³⁾、近藤 正英⁴⁾、廣田 良夫⁵⁾

1) 佐賀大学 医学部 社会医学講座 予防医学分野、2) 金沢市 保健局、3) 佐賀大学 医学部 小児科、
4) 筑波大学 医療系、5) 保健医療経営大学

2-2-03 Test-negative design 症例対照研究による外来でのロタウイルスワクチンの有効性評価

○中田 修二

医療法人社団智愛会 なかた小児科

2-2-04 ロタウイルスワクチンの有効性についての検討 ～医療経済学的評価も含め～

○菅田 健¹⁾、杉浦 勝美¹⁾、長尾 みずほ¹⁾、谷口 清州¹⁾、菅 秀¹⁾、中村 晴奈²⁾、
神谷 元²⁾、河本 聡志³⁾、谷口 孝喜³⁾、藤澤 隆夫¹⁾

1) 独立行政法人国立病院機構三重病院、2) 国立感染症研究所、3) 藤田医科大学ウイルス寄生虫学教室

一般演題7 9:40～10:30

第2会場(5F オリオン)

[肝炎ワクチン・ワクチン疫学]

座長：西條 政幸(国立感染症研究所 ウイルス第一部)

鈴木 基(国立感染症研究所 感染症疫学センター)

2-2-05 ヒト免疫不全ウイルス感染者における A 型肝炎ワクチン(エイムゲン®)の有効性の検討

○四柳 宏¹⁾、古賀 道子¹⁾、安達 英輔²⁾、鯉渕 智彦¹⁾、堤 武也¹⁾

1) 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野、2) 東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科

2-2-06 母子感染予防における B 型肝炎ワクチンの新旧方式・種類による HBs 抗体獲得の検討

○西村 光司¹⁾、長野 伸彦¹⁾、藤岡 一路²⁾、山名 啓司³⁾、宮林 寛⁴⁾、村林 督夫⁵⁾、増永 健⁶⁾、森岡 一朗¹⁾

1) 日本大学 医学部 小児科学系小児科学分野、2) 神戸大学大学院 医学研究科 小児科学分野、
3) 加古川中央市民病院 小児科、4) 春日部市立医療センター 小児科、5) 沼津市立病院 小児科、
6) 東京都立大塚病院 新生児科

2-2-07 ラオス人民民主共和国の予防接種事業に対する政策提言

○蜂矢 正彦¹⁾、宮野 真輔¹⁾、駒田 謙一¹⁾、木多村 知美¹⁾、法月 正太郎¹⁾、市村 康典¹⁾、杉山 真也²⁾、溝上 雅史²⁾、森 嘉生³⁾、竹田 誠³⁾

1) 国立国際医療研究センター 国際医療協力局、2) 国立国際医療研究センター 研究所ゲノム医科学プロジェクト、
3) 国立感染症研究所 ウイルス第三部

2-2-08 定期予防接種の累積接種率調査における同時接種実施状況の経年的推移 (2012 年から 2016 年)

○崎山 弘¹⁾、城 青衣²⁾、梅本 哲³⁾、清水 博之⁴⁾、大石 和徳⁵⁾

1) 医療法人社団崎山小児科、2) がん・感染症センター都立駒込病院、3) (株) 医療産業研究所、
4) 国立感染症研究所ウイルス第二部第二室、5) 富山県衛生研究所

2-2-09 全国の医療機関から弊社に依頼されたポリオウイルス抗体の検出状況 —2000 年から 2019 年までの集計結果と年齢群別にみた結果比較—

○石井 知恵子、飯田 慶治、加納 美奈子、小笠原 由美子、速永 淳
株式会社 エスアールエル

一般演題 8 9:00~10:30

第3会場 (6F 601)

[おたふくかぜワクチン・水痘帯状疱疹ワクチン]

座長: 吉川 哲史 (藤田医科大学 医学部 小児科学)

西村 直子 (江南厚生病院 こども医療センター)

2-3-01 マーモセットモデルによるムンプスワクチンの感染防御免疫の評価

○木所 稔¹⁾、加藤 文博¹⁾、永田 典代²⁾、加藤 大志¹⁾、岩田 奈織子²⁾、竹田 誠¹⁾、長谷川 秀樹²⁾、網 康至³⁾

1) 国立感染症研究所 ウイルス第三部、2) 国立感染症研究所 感染病理部、3) 国立感染症研究所 動物管理室

2-3-02 おたふくかぜワクチン接種後の無菌性髄膜炎発生に関する調査

○藤岡 雅司¹⁾、藺部 友良²⁾、菅谷 明則³⁾、太田 文夫⁴⁾、片岡 正⁵⁾

1) ふじおか小児科、2) 育良クリニック、3) すがやこどもクリニック、4) おおた小児科、
5) かたおか小児科クリニック

2-3-03 当院における過去7年間のおたふくかぜワクチン接種後抗体価の検討

○三原 由佳¹⁾、服部 文彦¹⁾、畑川 奈都樹¹⁾、鈴木 大次郎¹⁾、小原 尚美¹⁾、平井 雅之¹⁾、川口 博史¹⁾、山田 緑¹⁾、吉川 哲史²⁾、中山 哲夫³⁾

1) 刈谷豊田総合病院小児科、2) 藤田医科大学 小児科学、3) 北里生命科学研究所 ウイルス感染制御 II

2-3-04 ムンプスワクチン初回接種後と2回接種後におけるムンプス抗原刺激による サイトカイン産生

○中村 晴奈¹⁾、中山 哲夫²⁾、渡辺 正博³⁾、根来 麻奈美¹⁾、谷口 清州¹⁾、菅 秀¹⁾

1) 国立病院機構 三重病院 臨床研究部、2) 北里大学 北里生命科学研究所、3) すずかこどもクリニック

2-3-05 造血細胞移植後小児における予防接種再開・接種後抗体価に影響する因子の解析

○西川 英里、鈴木 高子、市川 大輔、濱田 太立、川島 希、成田 敦、奥野 友介、
村松 秀城、西尾 信博、鳥居 ゆか、川田 潤一、小島 勢二、高橋 義行、伊藤 嘉規
名古屋大学 小児科

2-3-06 保育園および小学校における水痘流行時のワクチン防御効果

○河村 吉紀¹⁾、服部 文彦¹⁾⁷⁾、板倉 尚子²⁾、鈴木 研史³⁾、山路 和孝⁴⁾、杉浦 時雄⁵⁾、
西中 康人⁶⁾、小澤 慶¹⁾、三浦 浩樹¹⁾、吉川 哲史¹⁾
1) 藤田医科大学 医学部 小児科学、2) 板倉医院、3) 竜美ヶ丘小児科、4) エンゼルこどもクリニック、
5) 杉浦こどもクリニック、6) わしづかクリニック、7) 刈谷豊田総合病院

2-3-07 水痘ワクチン定期接種化後の水痘患者の疫学の変化と臨床像についての検討

○服部 文彦¹⁾²⁾、小澤 慶²⁾、三浦 浩樹²⁾、河村 吉紀²⁾、吉川 哲史²⁾
1) 刈谷豊田総合病院 小児科、2) 藤田医科大学 医学部 小児科学

2-3-08 水痘ワクチン定期接種化後の水痘患者発生動向（水痘小児科定点報告より）

○森野 紗衣子、多屋 馨子、佐藤 弘、新橋 玲子、新井 智、高橋 琢理、砂川 富正、
鈴木 基
国立感染症研究所 感染症疫学センター

2-3-09 糖尿病患者における生水痘带状疱疹ワクチン接種後の水痘ウイルス特異的細胞性免疫能の検討 ―二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験―

○羽田 敦子
公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 感染症科

一般演題9 9:00～10:30

第4会場(6F 606)

[肺炎球菌ワクチン・髄膜炎菌ワクチン]

座長：永井 英明（独立行政法人 国立病院機構東京病院呼吸器センター）
西 順一郎（鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科微生物学分野）

2-4-01 国内の全年齢にわたる抗 PspA IgG 抗体血清疫学調査

○森野 紗衣子¹⁾、北上 悦子¹⁾、中山 大輝²⁾、大石 和徳³⁾
1) 国立感染症研究所 感染症疫学センター、2) 一般財団法人 阪大微生物病研究会 開発部 開発一課、
3) 富山県衛生研究所

2-4-02 成人侵襲性肺炎球菌症例から分離した菌株の血清型及び Pneumococcal surface protein A (PspA) 型分布解析

○金城 雄樹¹⁾²⁾、常 彬³⁾、丸山 貴也⁴⁾、藤倉 裕之⁵⁾、砂川 富正⁵⁾、西 順一郎⁶⁾、
渡邊 浩⁷⁾、鈴木 基⁵⁾、大石 和徳⁸⁾
1) 東京慈恵会医科大学 細菌学、2) 東京慈恵会医科大学 バイオフィルム研究センター、
3) 国立感染症研究所 細菌第一部、4) 国立病院機構三重病院 呼吸器内科、
5) 国立感染症研究所 感染症疫学センター、6) 鹿児島大学医学部 微生物学、
7) 久留米大学医学部 感染制御学、8) 富山県衛生研究所

2-4-03 成人肺炎球菌性髄膜炎の疫学的・細菌学的特徴

○藤倉 裕之¹⁾、常 彬²⁾、砂川 富正¹⁾、西 順一郎³⁾、渡邊 浩⁴⁾、丸山 貴也⁵⁾、金城 雄樹⁶⁾、大石 和徳⁷⁾、鈴木 基¹⁾

1) 国立感染症研究所 感染症疫学センター、2) 国立感染症研究所 細菌第一部、3) 鹿児島大学、4) 久留米大学、5) 国立病院機構 三重病院、6) 東京慈恵会医科大学、7) 富山県衛生研究所

2-4-04 高侵襲性 12F 血清型による成人侵襲性肺炎球菌感染症の臨床的特徴

○大石 和徳¹⁾²⁾、新橋 玲子²⁾、藤倉 裕之²⁾、福住 宗久²⁾、砂川 富正²⁾、多屋 馨子²⁾、鈴木 基²⁾、常 彬³⁾、渡邊 浩⁴⁾、西 順一郎⁵⁾、丸山 貴也⁶⁾、金城 雄樹⁷⁾

1) 富山県衛生研究所、2) 国立感染症研究所 感染症疫学センター、3) 国立感染症研究所 細菌1部、4) 久留米大学 医学部 感染制御学講座、5) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野、6) 国立病院機構 三重病院 呼吸器内科、7) 東京慈恵会医科大学 細菌学講座

2-4-05 鹿児島県における小児と成人の侵襲性肺炎球菌感染症原因菌の血清型分布

○藺牟田 直子¹⁾、児玉 祐一²⁾、岡田 聡司³⁾、常 彬⁴⁾、西 順一郎¹⁾

1) 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 微生物学分野、2) 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 小児科学分野、3) 済生会川内病院 小児科、4) 国立感染症研究所 細菌第一部

2-4-06 PCV13 接種をした左大腿に肺炎球菌血清型 28F による皮膚膿瘍 (cutaneous abscess) を形成した4か月女児

○成相 昭吉¹⁾、常 彬²⁾

1) 松江赤十字病院 小児科、2) 国立感染症研究所 細菌第一部

2-4-07 PCV 導入後9年間にわたる乳幼児上咽頭に定着する肺炎球菌の血清型およびPCG 耐性率の推移

○成相 昭吉¹⁾、常 彬²⁾

1) 松江赤十字病院 小児科、2) 国立感染症研究所 細菌第一部

2-4-08 肺炎球菌莢膜多糖を表層に纏うプロバイオティクス大腸菌由来メンブレンヴェシクルの経鼻ワクチンへの応用

○中尾 龍馬¹⁾、平山 悟¹⁾、松本 直子¹⁾²⁾、Karlsson Jens³⁾、大西 真¹⁾

1) 国立感染症研究所 細菌第一部、2) 新八街総合病院 歯科口腔外科、3) Karolinska Institutet, Department of Microbiology, Tumor, and Cell Biology

2-4-09 国内における侵襲性髄膜炎菌感染症の疫学

○土井 育子¹⁾、中村 晴奈¹⁾、加賀 優子²⁾、新橋 玲子³⁾、蜂巢 友嗣⁴⁾、福住 宗久⁵⁾、砂川 富正⁶⁾、大石 和徳⁷⁾、石原 朋子⁸⁾、高橋 英之⁸⁾、大西 真⁸⁾、神谷 元⁵⁾

1) 国立感染症研究所感染症疫学センター 第一室 (FETP)、2) 千葉県印旛健康福祉センター、3) 国立感染症研究所感染症疫学センター 第三室、4) 千葉県衛生研究所、5) 国立感染症研究所感染症疫学センター 第一室、6) 国立感染症研究所感染症疫学センター 第二室、7) 富山県衛生研究所、8) 国立感染症研究所 細菌第一部

[HPV ワクチン・リスクコミュニケーション]

座長：中島 一敏(大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科)
齋藤 昭彦(新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野)

2-1-10 日本における生まれ年度による HPV ワクチンの CIN3 予防効果検証

○八木 麻未¹⁾、上田 豊¹⁾、榎本 隆之²⁾、宮城 悦子³⁾、池田 さやか⁴⁾、中山 富雄⁵⁾

- 1) 大阪大学 大学院医学研究科 産科学婦人科学、2) 新潟大学 大学院医歯学系研究科 産科婦人科学、
3) 横浜市立大学 大学院医学研究科 産婦人科学、4) 国際医療福祉大学三田病院 婦人科、
5) 国立がん研究センター 社会と健康研究センター

2-1-11 静岡県小児科医会予防接種協議会による HPV ワクチン接種推進プロジェクト

○田中 敏博¹⁾²⁾

- 1) 静岡県小児科医会 予防接種協議会、2) JA 静岡厚生連 静岡厚生病院 小児科

2-1-12 プライマリ・ケアに関わる医療従事者への予防接種啓発活動

○中山 久仁子¹⁾、坂西 雄太²⁾、菅長 麗依³⁾、千葉 大⁴⁾、西岡 洋右⁵⁾、来住 知美⁶⁾、
武内 治郎⁷⁾、守屋 章成⁸⁾、岩田 健太郎⁹⁾、岡田 唯男³⁾、鈴木 富雄¹⁰⁾

- 1) 医療法人メファ仁愛会 マイファミリークリニック蒲郡、2) 坂西内科医院、3) 亀田ファミリークリニック館山、
4) Family medical Practice Hanoi、5) 西岡記念セントラルクリニック、6) プリンセススクルーズ社、
7) 兵庫医科大学臨床疫学、8) 名古屋検疫所 中部空港検疫所支所、9) 神戸大学医学部附属病院 感染症内科、
10) 大阪医科大学附属病院 総合診療科

2-1-13 演題取り下げ

2-1-14 風疹含有ワクチンにおける、説明対象者や場面設定に応じた、適切な説明手法の検討

○奥野 英雄¹⁾²⁾、佐藤 弘²⁾、大石 和徳³⁾、吉川 肇子⁴⁾

- 1) 大阪大学医学部附属病院、2) 国立感染症研究所 感染症疫学センター、3) 富山県衛生研究所、
4) 慶応義塾大学 商学部

[組換えワクチン・新しいワクチン研究]

座長：保富 康宏(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医学研究センター)
井上 直樹(岐阜薬科大学 生命薬学大講座 感染制御学研究室)

2-3-10 非ヒト霊長類における Fc 受容体依存免疫応答評価系の樹立

○高濱 正吉¹⁾、神沼 智裕¹⁾、升田 雄士¹⁾³⁾、保富 康宏²⁾、高橋 宜聖⁴⁾、山本 拓也¹⁾³⁾

- 1) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 免疫老化プロジェクト、
2) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医学研究センター、
3) 大阪大学大学院 薬学研究科 免疫老化制御学分野、4) 国立感染症研究所 免疫部

**2-3-11 即時性及び長期持続性免疫誘導能を有する組換えインフルエンザワクチンによる
発症防御効果の検討**

○安井 文彦¹⁾、山地 賢三郎¹⁾、本田 智子¹⁾、倉石 武²⁾、藤幸 知子²⁾、伊藤 靖³⁾、
米田 美佐子²⁾、迫田 義博⁴⁾、小笠原 一誠³⁾、服部 正策²⁾、喜田 宏⁴⁾、甲斐 知恵子²⁾、
小原 道法¹⁾

- 1) 公益財団法人 東京都医学総合研究所、2) 東京大学医科学研究所、3) 滋賀医科大学、4) 北海道大学

2-3-12 組換え HTLV-1 Env タンパク質のマウスにおける抗体誘導能の検討

○相内 章、齋藤 訓平、鈴木 忠樹、長谷川 秀樹

国立感染症研究所 感染病理部

2-3-13 サイトメガロウイルスに対するワクチン候補抗原の至適化を目的としたヒト型抗体のスクリーニング系構築

○古賀 悟¹⁾、小栗 弘大¹⁾、竹腰 正隆²⁾、腰塚 哲朗¹⁾、井上 直樹¹⁾

1) 岐阜薬科大学 薬学部 生命薬学大講座 感染制御学研究室、2) 東海大学

2-3-14 血中細胞外小胞内の免疫性御性 microRNA とワクチン接種後の過剰な免疫応答

○押海 裕之

熊本大学 大学院生命科学研究部 免疫学講座

一般演題 12 13:00～13:50

第4会場(6F 606)

[麻疹含有ワクチン・医療従事者のワクチン]

座長：菅 秀(独立行政法人国立病院機構三重病院 小児科)

神谷 元(国立感染症研究所感染症疫学センター)

2-4-10 約10年間の乳児麻疹の疫学

○中村 晴奈¹⁾、竹田 飛鳥¹⁾、神谷 元²⁾、松井 珠乃²⁾、多屋 馨子²⁾、砂川 富正²⁾、鈴木 基²⁾

1) 国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース、2) 国立感染症研究所 感染症疫学センター

2-4-11 麻疹アウトブレイク時における6～11ヶ月児への緊急の麻疹含有ワクチン接種：2018年沖縄県

○久場 由真仁¹⁾、喜屋武 向子¹⁾、大山 み乃り¹⁾、高良 武俊¹⁾、柿田 徹也¹⁾、宮平 勝人¹⁾、川上 佳乃²⁾、仁平 稔¹⁾²⁾、久高 潤²⁾、糸数 清正¹⁾

1) 沖縄県衛生環境研究所、2) 沖縄県保健医療部地域保健課

2-4-12 看護学生を対象とした麻しん・風しん・水痘・ムンプスウイルス血清疫学調査

○根来 麻奈美¹⁾、菅 秀¹⁾²⁾、長尾 みづほ¹⁾²⁾、谷口 清州¹⁾²⁾、藤澤 隆夫¹⁾²⁾

1) 国立病院機構 三重病院 臨床研究部、2) 国立病院機構 三重病院 小児科

2-4-13 看護学生入学時の抗体価から推測するMRワクチン3期と4期の効果

○宮津 光伸、菊池 均

名鉄病院 予防接種センター

2-4-14 調剤薬局職員への予防接種啓発と麻しん・風しん抗体検査結果について

○浜端 宏英¹⁾⁶⁾⁷⁾、知念 正雄²⁾⁶⁾⁷⁾、具志 一男³⁾⁶⁾⁷⁾、大山 み乃り⁴⁾⁶⁾、砂川 富正⁵⁾⁶⁾

1) 医療法人さくら会 アワセ第一医院、2) (医)いちご会 ちねん小児科、3) (医)一志会 ぐしこどもクリニック、4) 沖縄県衛生環境研究所、5) 国立感染症研究所感染症疫学センター、6) 沖縄県はしか“0”プロジェクト委員会、7) (公)社団法人 沖縄県小児保健協会

会 長 講 演

11月30日(土) 第1会場 8:30～8:50

サーベイランスから対策へ ～有効性と安全性の両輪で考えるワクチン元年～

多屋 馨子

国立感染症研究所 感染症疫学センター

座長：山西 弘一（一般財団法人 阪大微生物病研究会）

サーベイランスから対策へ ～有効性と安全性の両輪で考えるワクチン元年～

多屋 馨子

国立感染症研究所 感染症疫学センター

医学部卒業後33年間、小児科臨床、臨床ウイルス学研究、感染症サーベイランス、予防接種研究、予防接種・感染症に関する教育啓発活動と、常に「ワクチン」をテーマに多方面から関わってきました。そして今年、新たな元号「令和」で迎える元年に第23回日本ワクチン学会学術集会の会長を務めさせていただけることを大変光栄に思います。

小児科医として多くの子どもたちにワクチンを接種してきた経験と、ヘルペスウイルスを中心とした臨床ウイルス学研究の経験をいかし、現在は、感染症サーベイランスからワクチンの有効性を検証し、予防接種後副反応疑い報告サーベイランスからワクチンの安全性を研究しています。

ともすれば有効性のみ、あるいは、安全性のみに目が向けられる現在、ワクチンは常に「有効性と安全性の両輪」で検討することが求められます。ワクチンによって得られた有効性を様々なサーベイランスで検証することで次の対策に活かすことが可能となります。2013年度から予防接種法に基づいて始まった予防接種後副反応疑い報告について検討することで、安全性を評価できるようになりました。

2018年7月末から国内では風疹の流行が続いています。血清疫学調査（予防接種法に基づく感染症流行予測調査）から明らかになった成人男性への感受性者の蓄積が新たな予防接種施策に繋がり、国内では初めて壮年期への定期接種（A類疾病：国の積極的勧奨があり、被接種者には受けるように努める義務が伴う）が導入されました。本講演の後、引き続いて行われる特別シンポジウム「風疹排除にむけて」に繋がたいと考えています。

令和元年11月30日、12月1日の2日間、基礎、臨床、疫学、製造開発、行政の関係者が一堂に集まる本学会で、多方面からの研究内容について、活発な意見交換ができることで、更なるワクチン学の発展に繋がることを期待しています。

一般演題

第1日目 PM 11月30日(土)

一般演題1 第1会場 16:30～17:40

インフルエンザワクチン・アジュバント

1-1-01～1-1-07 座長：奥野 良信(地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所)
岡田 直貴(大阪大学大学院薬学研究科ワクチン・免疫制御学プロジェクト)

一般演題2 第2会場 16:30～17:20

風疹含有ワクチン

1-2-01～1-2-05 座長：宮崎 千明(福岡市立心身障がい福祉センター)
谷口 清州(国立病院機構三重病院 臨床研究部)

一般演題3 第3会場 16:30～17:40

アジュバント・粘膜ワクチン・BCG ワクチン

1-3-01～1-3-07 座長：俣野 哲朗(国立感染症研究所 エイズ研究センター)
通山 哲郎(一般財団法人 阪大微生物病研究会)

一般演題4 第4会場 16:30～17:40

百日咳を含む呼吸器感染症ワクチン・アデノウイルス・エンテロウイルス

1-4-01～1-4-07 座長：藤本 嗣人(国立感染症研究所 感染症疫学センター)
大塚 菜緒(国立感染症研究所 細菌第二部)

1-1-01 外気温が経鼻インフルエンザワクチンの効果に与える影響の解析

○一戸 猛志、森山 美優

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター ウイルス学分野

【目的と意義】36℃で飼育したマウスでは、22℃で飼育したマウスと比較して、インフルエンザウイルス感染後のウイルス特異的な肺のCTL応答や血中のIgG抗体価が有意に低下していることを昨年の本学会で報告した(Moriyama and Ichinohe. PNAS 2019)。そこで本研究では外気温が皮下接種ワクチンや経鼻インフルエンザワクチンの効果に与える影響を解析した。

【材料と方法】C57BL/6Jマウスを22℃、36℃の環境で1週間飼育し、不活化全粒子ワクチンを皮下接種もしくはインフルエンザHAワクチンとpoly(I:C)を3週間隔で2度経鼻投与した。ワクチン接種後はマウスを各温度へ戻し、最初の皮下接種ワクチンまたは2回目の経鼻ワクチン接種から10日後の、血中のワクチン特異的なIgG抗体価と鼻腔洗浄液中のワクチン特異的なIgA抗体価をELISAで測定した。

【結果と考察】不活化全粒子ワクチンの皮下接種に対する血中のIgG抗体価は36℃と22℃のグループ間で有意な差を認めなかった。一方、22℃のグループと比較して36℃で飼育したグループではHAワクチンとpoly(I:C)アジュバントを併用した経鼻ワクチン接種後の血中のワクチン特異的なIgG抗体価と鼻腔洗浄液中のワクチン特異的なIgA抗体価が有意に低下していた。このことから、高温の外気温は経鼻インフルエンザワクチンの効果にも影響を与えることが示唆された。現在、外気温に影響を受けないアジュバントの探索や36℃のグループでpoly(I:C)併用経鼻ワクチンの効果が低下するメカニズムを解析中である。

1-1-02 経鼻不活化インフルエンザワクチンにおける大腸菌 Nissle 1917 株外膜小胞の粘膜アジュバントとしての利用

○齋藤 訓平¹⁾²⁾、相内 章¹⁾、平山 悟³⁾、鈴木 忠樹¹⁾、西山 千春²⁾、中尾 龍馬³⁾、長谷川 秀樹¹⁾

1) 国立感染症研究所 感染病理部、

2) 東京理科大学大学院 基礎工学研究科 生物工学専攻、

3) 国立感染症研究所 細菌第一部

現行の不活化インフルエンザワクチンの皮下接種は全身性のウイルス特異的IgG抗体を誘導し重症化阻止に寄与するが、感染自体を防ぐことができない。一方で経鼻インフルエンザワクチンは感染局所である上気道粘膜上皮細胞上にウイルス特異的粘膜型IgA抗体を誘導し感染自体を防ぐため、より高い予防効果が見込まれる。しかしナイーブな個体に対する不活化インフルエンザワクチン単体の経鼻接種では感染防御に十分な免疫応答を誘導できないためアジュバントの添加が必要となるが、現在承認されている粘膜アジュバントは存在しない。近年、細菌が放出する膜小胞をワクチン抗原として利用する研究が進められている一方で、病原体関連分子パターンを多く含むことからアジュバントとしての応用も期待されている。そこで本研究ではプロバイオティクスとして用いられる大腸菌 Nissle 1917 株 (EcN) の外膜小胞 (Outer Membrane Vesicles, OMVs) と遺伝子組換え実験等で汎用されている大腸菌実験室株のOMVsによる炎症の程度を比較し、経鼻インフルエンザワクチンの粘膜アジュバント活性を評価した。

雌BALB/cマウス骨髓細胞から誘導した樹状細胞に大腸菌実験株BW25113(BW)のOMVsまたはEcN OMVsを添加し、上清中に誘導される各種サイトカイン量を比較した。さらに雌BALB/cマウスの下気道にBW OMVsまたはEcN OMVsを投与し、肺の病理解析を行うと共に、肺胞洗浄液中に誘導されるサイトカイン量を比較した。これらの結果からin vitro, in vivoのいずれにおいてもEcN OMVsはBW OMVsと比較し、炎症誘導能が低いことが示唆された。また、雌BALB/cマウスにBW OMVsとEcN OMVsを粘膜アジュバントとして添加し、A(H1N1)pdm09由来不活化HAワクチンを3週間隔で2回経鼻接種し、最終免疫の2週間後にマウス馴化A/Narita/1/09(H1N1)pdm09を上気道感染させ、感染3日後の鼻腔洗浄液と血清を回収した。この時のHA特異的な鼻腔洗浄液中IgAならびに血清中IgG抗体をELISAで測定し、鼻腔洗浄液中のウイルス価をブランクアッセイにより評価したところ、EcN OMVsを併用した群はワクチンのみを接種した群に比べ、血清ならびに鼻腔洗浄液中にHA特異的な抗体が強く誘導され、鼻腔洗浄液中のウイルス価は有意に減少したため、EcN OMVsの粘膜アジュバント活性が示された。

したがってプロバイオティクスEcN OMVsは大腸菌実験室株由来OMVsと比較して、副反応の少ない粘膜アジュバント候補となり得ると考えられる。

第23回日本ワクチン学会学術集会 プログラム・抄録集

会 長：多屋 馨子

学会事務局：国立感染症研究所 感染症疫学センター
〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111 FAX：03-5285-1129

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社内
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル14階
TEL：03-3508-1214 FAX：03-3508-1302
E-mail：jsvac23@convention.co.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>